

# 平成27年度 第5回小平市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会 会議要録

## 1 開催日時及び場所

日時：平成28年2月12日（金）10時00分から11時20分まで

場所：中央公民館 ホール

## 2 出席者

### (1) 委員

13名（井上委員、小林委員欠席）

### (2) 市側出席者

齊藤企画政策部長、企画政策部安部政策課長、同三野課長補佐、同松長係長、同奥村係長、地域振興部篠宮市民協働・男女参画推進課長、同櫻井産業振興課長補佐、同入澤係長。健康福祉部永井健康推進課長補佐、都市開発部奈良都市計画課長。計画策定支援等業務受託事業者（アビームコンサルティング株式会社）五十嵐氏、大川氏。

### (3) 傍聴者

3名

## 3 配布資料

資料1 地方創生加速化交付金について（案）

資料2 小平市人口ビジョン（素案）及び小平市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）に対するパブリックコメントの実施結果

資料3 パブリックコメント等を踏まえた小平市人口ビジョン（案）及び小平市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）への変更点について

資料4 小平市人口ビジョン（案）

資料5 小平市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）

## 4 内容

### (1) 議題

#### ①地方創生加速化交付金について

事務局から資料1を用いて、小平市の地方創生加速化交付金事業について説明を行った。

(委員) 小平市の申請額はどの程度を予定しているのか。

(事務局) 4,000～5,000万円程度を予定している。

(委員) コワーキングスペースの場所は決まっているのか。賃貸物件か、空き家などをリフォームして利用するのかで費用が変わってくる。

(事務局) 現時点で、場所は決まっていない。空き店舗等をリフォームする想定である。

(委員) 事業の先駆性について教えて欲しい。

(事務局) 東京圏において、テレワークという就労形態はあまり見られないため、子育てサイトと政策間連携しながら実施することで先駆的な取組になると考えている。

(委員) 現時点では先駆的であるとは言えない。大学や金融機関との強固な連携の下で、一丸となって実施していくことで先駆性が出てくる。既にワーキングプログラムを持っているNPO法人との連携も考えられる。

(委員) 子育て支援とテレワークに限定したものとなっている。これでテレワークの業務の受発注は難しいのではないか。

(委員) 子育てサイト構築のための人材育成ではない。子育てネットは、あくまでもきっかけづくり。自分の子育てを手助けするWEBサイトの構築を通じて、就労への気運を作っていく、在宅ワーカーとしてのきっかけとする。就労環境の整備をしていくことが重要である。

(委員) テレワーク自体は先駆性がないので、もっと地域性を出していくことが重要である。地域の中でテレワークについての企業のニーズを発掘していくことも必要。WEBサイトの更新を手伝ってほしいという企業からの相談もある。起業も含めたビジョンを謳ってみたらどうか。ハンドメイドなど様々な意欲のある女性が多い。

(委員) 東京都は比較的専業主婦が多く、優秀なキャリアを持っている女性が就労していない。その層を掘り起こしてスキルアップする技術支援をして、就労プロデューサーに仕事のマッチングをしてもらう。専業主婦単独では、就労意欲が高くてもテレワークの仕事を受注できないので、プラットフォームの構築が必要。多摩地域においては、これまで正規就労の支援を行ってきたが、在宅ワークの就労支援はしてきていない。立地的に多摩地域はそういうところだと国に理解してもらえれば、十分先駆的であるし、実績もつくれると思う。

## ②小平市人口ビジョン(素案)及び小平市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)に対するパブリックコメントの実施結果について

事務局から資料2を用いて、パブリックコメントの結果報告を行った。

平成27年12月20日～平成28年1月18日の期間に実施し、3人の方から意見の提出があった。

(委員) パブリックコメントはどのように募集したのか。

(事務局) 市のホームページ、市報にて募集した。

(委員) 3件というのは、市民からの関心が薄いように感じる。

(事務局) 案件によっては数十件応募があることを考えると、今回は比較的少なかった。

### ③小平市人口ビジョン(案)及び小平市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について

事務局から資料4、5を提示し、素案からの変更点について、資料3を用いて説明した。

(委員) 多摩地域の地方創生加速化交付金を見ると、もう少し早く取り組んでいれればと思う。また、広域連携ができていない。小平市は、隣接市との境がはっきりしていないので、広域連携しやすいのではないか。テレワークでの就労支援なども、小平市に限らず、広域連携で実施していくとよいと考える。

(委員) K P I が適切でないものがある。

(委員) 具体的にどのK P I か。

(委員) 総合戦略の施策「”住んでみたい”まちづくりと魅力の情報発信」における「観光ガイドブック等の配布部数」など。また、「市内における”しごと”をつくる」における「就労支援のための講習会参加者数」もアウトカムと言えるか疑わしく、また、事業としての予算規模と比較すると100人という目標値は少なすぎる印象がある。その他、全体として目標が低いと感じる。総合戦略(案)の修正は可能か。

(事務局) 現段階での修正は基本的に難しい。来年度の見直しの中で修正を行うこととなる。

(委員) 区部では総合戦略を策定しない自治体もある。人口や所得が増加しており、自治体として危機感がない。多摩地域は余力があるので、国のお金ではなく地域のお金を使う自立型の提案も行い、税収の増加を図るべきである。

#### ④本年度の小平市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に当たっての意見

(委員) この総合戦略についても所属組織に持ち帰って議論し、今後、JAとしても、なるべく地元に戻元できるような事業を実施していきたいと考えている。

(委員) この委員会に参加することで、小平の現状や課題についての理解が深まった。今後、事業の運用段階において主役となるのは市民である。市民が主役となって行動し、PDCA サイクルを構築していくことが重要である。そのためにも、関心を持ってもらうことが必要であり、周知の方法も見直す必要がある。

(委員) 小平商工会としては、中小事業者への支援が中心となっているが、街や子育て中の女性が元気でなければいけない。そのために地元の企業の活性化に取り組まなければならない。地方創生加速化交付金の事業についても小平商工会と一緒に取り組ませていただければと考えている。

(委員) 私たちの団体は、今年で設立 10 周年を迎える。暮らすまちで仕事をつくる活動を行ってきた。これまで培ってきた経験が、今後、地方創生に活かせればよいと考える。子育て世代の女性の就労支援は注目度が高い。他の自治体で関わっている就労支援の研修などでも、当初こそ和やかな雰囲気であるが、今後働く場合・働かない場合のシミュレーションに基づくライフプランの話などをすると、参加者の目の色が変わってくる。最終的には強い関心を持って取り組んでいただける。

(委員) 自分の持っている経験や能力を活かしてもっと近くで働ければ、と考える子育て世代がたくさんいると思う。その方たちの力が発揮できる場があれば、地域の活性化に繋がる。人材バンクを設置して、誰がどういうスキルや経験を持っているのか見える化できればよいと考える。また、

人材コーディネーターを設置するのもよい。

- (委員) 総合戦略の施策「農あるまちづくりの推進」の中で「営農意欲ある経営体として認定農業者を拡充し」とあるが、営農意欲のない農家の保有する農地から失われていく。農業は収入にならないし、後継者もないという農家に対して何らかの力を与えることができないかと考えている。これは早めに手を打つ必要がある。そういった課題へ創意工夫のある対策を実施すると面白いものとなるのではないかと考える。
- (委員) 小平市に大きな変革をもたらせると期待して参加した。民間人としては歯がゆいと感じる部分があり、官と民の違いがあることが分かった。今後、官へのアプローチする際にはバックグラウンドをしっかりと持ってやっていくことが必要ということが理解できた。
- (委員) 推進委員会に参加して、日本の現状が見えてきた。また、様々な分野の方と交流を持てたのも大きな経験である。現在、女性の生き方は難しいところにある。テレワークは、きちりやっているという自治体が少ないので、津田塾大学や武蔵野美術大学などと連携し、特化したテレワークを推進することで企業を呼び込み、アーティストに住んでもらえるのではないかと考える。
- (委員) 2020年のオリンピックに向けて、空き家対策の一環として、民泊などを推し進めてはどうか。小平青年会議所としては、人口ビジョンを活かして事業を行っていきたい。今後は市内の大学連携を進めていききたいし、個人的には異業種交流会を通じて、市内の商店街で活躍できる人間関係の構築に取り組みたい。
- (委員) 推進委員会の中で、社会福祉と住民参加のまちづくりについて、もっと総合戦略に反映したかったのだが、情報の発信が十分にできなかった

たのが反省点である。例えば、コミュニティスクールを活性化し子どもたちが安心安全に暮らせる環境づくりや、高齢者だけでなく住民主体の居場所づくり、見守りなどご近所力向上の取組、また、その担い手としてコミュニティビジネスやNPOに参加するまでいかない段階のための若者の育成など、地域ぐるみで人が育ち合って成長するまちづくりについて、総合戦略に盛り込めればよかった。

(委員) 市民として自覚を持って、もっとアクティブに参加できたらと思った。

他の近隣自治体だと、イベント等でいろいろ声がかかる。小平市もサークルを募って終わりではなく、長く伴走する取組をお願いしたい。

(委員) 総合戦略で明示されていない事業が、今後実施できないというわけではない。来年度以降も、住民参加のまちづくりに関する事業については継続して提案していただければと思う。

(委員) 小平市は全国にPRできるような特色がなく、地方創生として今後どのように進めていくかが課題である。行政や市民に熱気が感じられない。熱気がないと、アイデアも生まれず、行動にも繋がらない。行政からの発信が不足していると思う。ベッドタウンとして定着した市だから、その強みを活かし、住みやすいまち、子育てしやすいまち、安全なまち、などPRしていくとよい。

(委員) 小平市は全国にPRできるような特色こそないが、地方が最も欲しがっている”人”が増えている。それを活かして、まちづくりをしていきたい。行政や市民から熱気が感じられないのは、そういった背景に由来するものと考えられる。

**⑤その他**

次年度の日程は、追って連絡することとする。

以上